

池田市男女共同参画パンフレット

ご存知ですか？

# パパの 子育てメリット!



女性も男性も、ともに豊かに輝く社会をめざして

池田市

## 「子育てをおもしろがる～男性の子育ての今～」

NPO法人ファザーリング・ジャパン関西 理事長 篠田 厚志 さん



父親の子育てプログラム作りをおこなうファザーリング・ジャパン関西において、講演・講座、イベントプロデュースを担当されている篠田さんは、3人のお子さんのパパであり、育児休業取得の経験もお持ちで、ご自身の実体験に基づく男性の子育てについてお話ししてくださいました。

「父親が子育てに関わると子どもの育ちをより良くする。子どもの未来は体験が多いほど豊かになる、そのためには父親が必要である。男脳・女脳の違いから、愛されるパパになるには、とにかく話し合うことが大事である。父親が常識にとらわれずに、子育てを遊ぶようにおもしろがるのが大事である。」などのお話がありました。

参加者からはとても参考になるお話で、大変良かったという感想がよせられました。

### ●イクメンとは・・・

子育てを楽しみ、子育てをしながら自分自身も成長する男性をイクメンといいます。

イクメンが増えれば、その妻である女性の生き方が変わり、社会のあらゆる分野における活動に参画することができます。

男性にとっても、生きがいのある社会づくりのためには、地域や家庭へ参加しやすい環境づくりが必要です。

### 【育児休業制度の概要】

原則は1歳未満の子どもを育てる男女労働者を対象とした休業

★妻が専業主婦や育休中でも、夫は育児休業を取得することができます。

子どもが1歳の時点で保育所に入所できない場合等は、子どもが1歳6か月まで育児休業の延長ができます。さらに子どもが1歳6か月の時点で保育所に入所できない場合等は、子どもが2歳まで育児休業の延長が可能です。

★両親で協力して育児休業を取得するための特例

出生後8週間以内に、育児休業を開始し、かつ終了した場合、再度の取得が可能。

両親がともに育児休業を取得する場合は、子が1歳2か月に達するまでの間、育児休業が取得可能。（取得期間は産後休業期間を含め1年間）

男性の  
育児休業

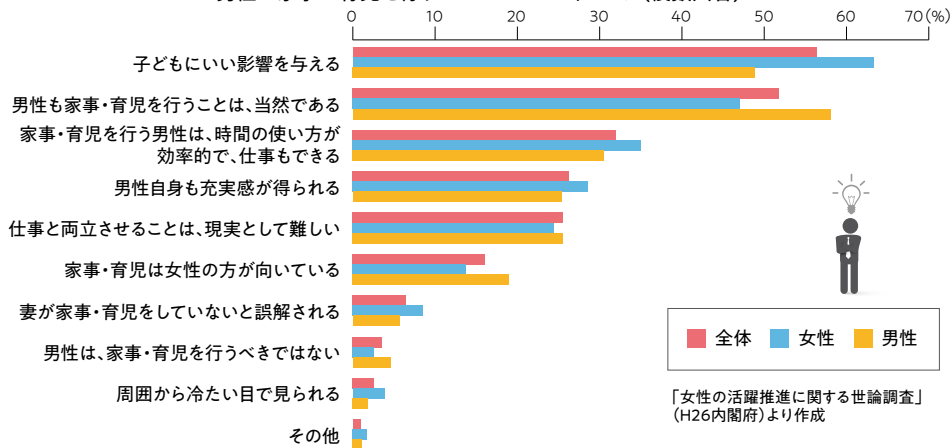
# 男性にとっての家事・育児参画

内閣府男女共同参画局ホームページより引用

## 男性の家事・育児参画へのイメージ

平成26年度調査によると、男性は「男性も家事・育児を行うことは、当然である」、女性は「子どもにいい影響を与える」が最も多い回答になっています。

男性が家事・育児を行うことについてのイメージ(複数回答)

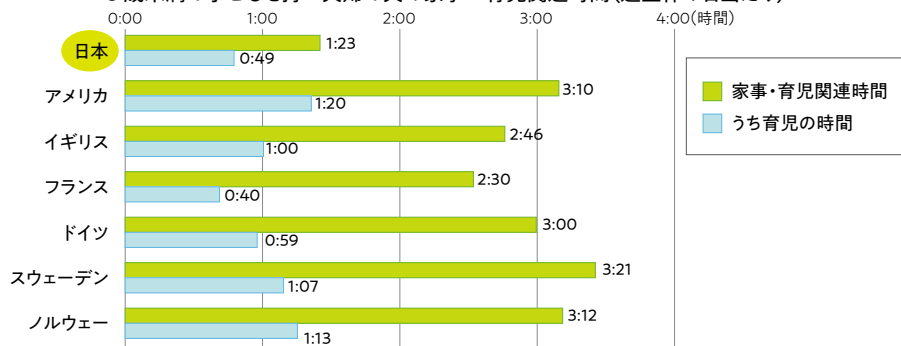


「女性の活躍推進に関する世論調査」  
(H26内閣府)より作成

## 男性の家事・育児参画時間

諸外国に比べ、男性の家事・育児参画時間は低水準となっています。

6歳未満の子どもを持つ夫婦の夫の家事・育児関連時間(週全体1日当たり)



備考) 総務省「平成28年社会生活基本調査」、Bureau of Labor Statistics of U.S.「American Time Use Survey」(2016)及び Eurostat「How Europeans Spend Their Time Everyday Life of Women and Men」(2004)より作成

平成26年度の内閣府の調査では、男性が家事・育児を行うことについてのイメージは、男性は「男性も家事・育児を行うことは、当然である」、女性は「子どもにいい影響を与える」という回答が、それぞれ最も多くなっています。

しかし現実には、男性の家事・育児参画時間は、諸外国に比べ低水準になっています。

総務省の労働調査では、週労働時間60時間以上の男性就業者の割合は、子育て期の男性(30から40代)が最も高くなっています。男性の家事・育児参画時間が低水準となっている1つの要因と考えられます。

仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)の実現が必要不可欠です。

## 男性の育児休業取得によるメリット

### 生活面では

- 育児・家事に主体的に取り組める。
- 母親と同様に子育てをすることで、子どもに必要とされる存在となり、自分に自信がつく。
- 母親が急病の時でも、父親が育児・家事を不安なくすることができる。
- 子育てを通じて、地域での活動範囲が広がり、友達やネットワークができる。

### 仕事面では

- 育児休業を取得するために、自分の仕事の整理を行うことにより、これまでの業務のやり方を見直すことができる。
- 育児休業取得後も家事・育児を行うために、限られた時間で成果を出すことが必要となり、時間管理能力・効率的な働き方が身につく。
- 上司・同僚の協力を感謝の気持ちが生まれ、社内のコミュニケーションが良好になる。

厚生労働省 育メンプロジェクトホームページより参照

